

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和2年3月13日

事業所名 デイサービスセンターすこやか

保護者等数(児童数) 27 回収数 21 割合 78 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない (未回答を含む)	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	67%	29%	5%		基準に照らし合わせると、十分確保されている。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	90%	10%			基準以上の配置となっている。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	48%	43%	5%	4%	ブログ等を活用し、所内の紹介をする他、面談時などの機会に所内の様子を見学していただく。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	95%	5%			アセスメントデータに基づく個別支援計画を作成している。
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	95%	5%			個別支援計画に基づき、日々の目標を設定している。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	14%	57%	19%	10%	長期休暇での外出等のイベント企画の際に交流の機会を設定する。
保護者 への 説明 等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%				個別支援計画・重要事項説明書を用いて説明している。
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%				帰宅対応時に様式を用い、日々説明している。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	90%	10%			個々の要望に合わせて対応したり、ニーズに合わせてお声がけしたりしている。
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	52%	48%	5%		保護者懇談会の周知を強化する。また保護者会開催後には、その内容を広報誌以外でもお伝えする。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	90%	10%			苦情解決体制については年度当初にその説明を行っている。意見箱の周知について継続して行う。ホームページ上に、ご意見カードを掲載中。
	12	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	95%	5%			アセスメント情報に基づいたコミュニケーション支援の実施と、電話・メール等を活用した意思疎通に動いている。
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	86%	14%			広報「あおばだより」を発行し、行事予定や活動内容についてはHP・ブログ、個別の内容は個別に紙媒体でお伝えしている。
	14	個人情報に十分注意しているか	95%	5%			利用者個人情報保護マニュアルを作成し、対応している。情報は単年度で更新している。
非常 時 等 の 対 応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	76%	24%			応急手当、防犯対策、感染症のマニュアルを整備し対応しているが、内容は今後保護者懇談会にて周知し、事業所内へ掲示する。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	86%	14%			避難訓練は毎月実施しているが、実施する曜日に偏りがないように(実施していない子どもがいないように)配慮する。
満足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	71%	10%		19%	今後も全児童が楽しく通所できるよう工夫を続けます。
	18	事業所の支援に満足しているか	76%	5%		19%	今後も満足して利用いただけるよう精進させていただきます。

\*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことで、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

\*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことで、子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせることで実施されることが想定されています。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和2年3月13日

事業所名 デイサービスセンターすこやか

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		100%		余暇・課題活動スペースの構造化。	広さの基準は満たしている。様々な活動を提供し、一ヶ所に集中しないよう設定する。
	2	職員の配置数は適切である	60%	40%		基準を満たしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	20%	80%		段差はステップで極力解消している。	歩行不安定な児童の動向に留意する。(躓きによるヒヤリ・ハットは確認されてない。)
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%			個別支援計画と日々の目標設定。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80%	20%		アンケート結果に基づく事業計画の策定。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		80%		法人内他所属の意見を伺うなどした。	第三者評価の受検を検討。 市の実地指導にて頂いた意見を踏まえ、業務内容の改善を図った。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			研修情報は常に職員に開示している。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%		アセスメント様式の整備。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	60%	40%		必要に応じ、ミーティングで検討している。	立案や方針検討をミーティングを活用し、チーム全体で情報共有して行う。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	80%	20%		パターン化しないように変化をつけている。	活動内容を児童に合わせて、より個別化する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	20%		利用時間帯に配慮した課題内容の設定をしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	80%	20%		他者との関わりを持つ場面を児童に合わせて設定している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			可能な限り行っている。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和2年3月13日

事業所名 デイサービスセンターすこやか

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		100%		終了後ではないが、振り返りと情報共有は行っている。	日誌やグループウェアを介し、職員が揃わない時も密な情報共有を行う。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	80%	20%			地域交流の取り組みを更に検討する。
関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	80%	20%			児童発達支援管理責任者が主に参画しているが、情報収集等は全職員が行う。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	60%	40%		ブログや書面による行事等の情報共有や送迎時の申し送りの実施。	事業所側から積極的に申し送りなどを行い、情報共有に努める。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		60%	40%		現在受入れの実績はないが、受入れの際は医療機関との連携を整えたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	40%	60%		相談支援専門員を通して、情報共有している。	利用前の事業所見学などの機会を通し、家族との情報共有を行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	40%	40%	20%	事業所移行の際には終了時評価等の情報提供をしている。	中学生までの受入であるため、障害福祉サービス事業所への移行実績はない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%		研修は受講している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			100%		外出イベントなどを通して交流の機会を設定する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	40%		60%	所属長が県の自立支援協議会関連委員をしている。	公表されている情報を共有する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%				
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		20%	80%		ペアレント・トレーニング等の研修を受け、専門知識を高める。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和2年3月13日

事業所名 デイサービスセンターすこやか

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80%	20%		メールや電話でも対応している。	面談の希望を伺い、適時実施する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60%	40%		前年度の意見を参考に、平日に保護者懇談会を実施した。	保護者会の周知を強化する。また保護者会開催後には、その内容を広報誌以外でもお伝えする。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			苦情についてマニュアルやチャート図を整備している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			ブログの他、記録にて必要に応じ写真を貼付している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%			利用者個人情報保護マニュアルを作成し、対応している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	60%	40%		本人がわかる伝達方法を用いコミュニケーション支援を実施。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	40%	20%	40%	地域交流会を開催した。	地域交流会の周知の強化をする。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	20%	80%		職員は把握している。	事業所内での掲示などを通し、保護者への周知を図る。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%				今後は風水害の訓練も実施する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			外部研修とその復命、内部研修の開催を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	20%	60%	20%	実施した実績はないが、ガイドラインを整備している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	20%	60%	20%	アレルギーの有無を確認している。	調理活動やイベント実施の際は調書を確認し、活動を設定する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%		様式を整備し記載・回覧。支援会議・運営会議にて共有。	